

[39_3] 図書館情報 : 九州大学附属図書館報 :
39(3)

<https://doi.org/10.15017/10689>

出版情報 : 図書館情報. 39 (3), pp.41-58, 2004-03-31. 九州大学附属図書館
バージョン :
権利関係 :

九州大学附属図書館報

図書館情報

The Kyushu University Library Bulletin

Vol. 39, No. 3 (2004)

【目 次】

大学図書館の魅力.....	41
九大が所蔵する記録資料の状態と活用(6)「坤輿全図」.....	44
You - 大学図書館で何をする?どう使う? - 新入生のための図書館ガイダンス - ...	46
附属図書館の開館スケジュールについて.....	48
附属図書館ホームページから情報検索!!.....	51
「法人化をパネに風を西から」	
九州地区国立大学パネルディスカッションを開催.....	53
中央図書館 IC カード利用実験.....	53
平成16年度開学記念行事 第45回附属図書館貴重文物展示	
シーボルトが観た日本.....	54
人事異動.....	54
図書館日誌.....	54
自著紹介.....	56
本学関係者著作寄贈図書.....	57
新図書館だより 第5回.....	58

大学図書館の魅力

西村重雄

1. 図書館の司書の方々が、日本の古刊本や写本の研究会をしておられるのを聞いて、「西欧の古い本についても、同様の勉強会があれば、私も喜んで参加したい」というような気持ちを申し上げたのが機縁で、ラテン語古刊本の書誌作成の研修会が発足して、すでに十年を超えた。2001年には、『タイトルページを読む楽しみ』という100頁を超えるユニークな小冊子を発行し、全国の図書館でラテン語古刊本の整理に泣く方々の「救いの綱」となっているようである。図書館の広報担当の方は、そんな先生なら、気の効いた文章の1つぐらいは書けそうだからとでも間違われたようで小生に依頼が舞込んだが、

元来法学部の無粋な文章の中で何十年も埋って生活してきたものが、一夜にして変身できるものではないのは、誰の目にも明らかであろう。

2. 昨年末以来、珍らしく堅い本が世間の高い評価を得て、いくつもの出版賞を獲得し、現在も増刷が続いているという。著者は、「昔の学生」(私達の時代)にとっては、懐かしく耳にひびく山本義隆氏であり、『磁力と重力の発見 1、2、3 (みすず書房)』というタイトルである。ある賞の選考委員の評に「・・・関係のラテン語文献にも当たっていること」という一項目があったと新聞が伝えている。

ニュートンの時代を扱うとすれば、不可避のことと思われるが、従来は（あるいは今もまだまだ）西欧の文化を伝えてきたラテン語文献まで手を伸ばして根本から考え直すことは、それほど当然のことではない。従って、山本氏の労作評価の一つの重要点として挙げられることとなったものと思われる。

3. 大学図書館の機能は、研究図書館と学習図書館の2つの役割に大別される。自然科学の分野では実験が研究の源であるように、文科系は図書が研究の糧である。ある学者によって新しい見解が打ち出されたとき、それぞれの論拠となっている資料・見解に遡りその当否を検討することとなるが、それは大部分が刊行図書として遺されているものであるから、当然、足は図書館に向う。自分の限られた専門分野に限らないのは当然で、また、思わぬ分野の参照が要求される。ここでも、伝統のある大学図書館の地力が発揮される。すなわち、各学部の講座担当者それぞれが競って何代にもわたって購入に心血を尽くし選びぬかれた図書の集積が、何百万冊という形で維持されているのである。碩学の個人蔵書にかねて関心を持ち続けているが、東西を問わずその運命は極めて厳しい。保存する場所の確保も難問の1つであるが、まずは立派な研究者でなければ、良い書籍は購入できぬ。しかし、思いのままに購入できる資金のある学者は少ない上に、多くは一代限りで、その没後、折角の蔵書が雲散する運命である。人間一生で集められるものはいくら恵まれたとしても精々数万冊のオーダーである。しかも、おのづと分野は限られてしまう。

その点、大学図書館は、各講座担当者の在任中の勉強ぶりを正確に伝える形で保存しており、次世代の研究者が公平に評価する。欲をいえば（欧米の大学図書館の殆どでやっているように）、図書館自体が潤沢な予算を持ち学識の高い司書にふさわしい待遇をもって処し、各研究者の現在の直接関心の対象にはなっていないが、50年、100年の将来にわたり重要な書物を買うことであろう。文科系では、図書さえあれば研究を自分の頭で深めることが可能であるのが原則である。コピー機の発達で、図書利用の独占は破れ、「民主的」研究環境になっているのは

大変良いことで、若い人々に対し自慢に値するであろう。

新しい見解が、図書の中での幾世紀にもわたる先人との対話ではじめて展開されるということは、マルクスの大英図書館での仕事の例をあらためて持ち出すまでもないであろう。時計台と並んで図書館が、大学のシンボルとされてきたのはまことに理由のあることなのである。図書館抜きには大学という知的な営みは殆んどありえないように思われる。

4. 学習図書館としての大学図書館についての評価は厳しいものがある。何年か前、文部省の「高官」が、「大学図書館は古本の倉庫ですよ」と国立大学学長方に繰返して言うておられると仄聞し、耳を疑ったが、果たして間もなく（名称の変更はあったが、明治初年文部省創設以来由緒ある）「図書館課」が消滅し、わずかに研究機関課の一係に格下げとなった。

ここに至るまでについては、国立大学全体の管理体制のあり方に対する真剣な反省が（時期はすでに遅すぎるかもしれないが）必要であろう。学生紛争に対して適切な措置を採りえなかったのと全く同様に、図書館の運営についても、専門職の識見を尊重せず、また財政的措置もないまま放置し続けた結果である。また、大学紛争後、国立大学の他の管理事務部門に倣った、図書館管理職の頻繁な転任も方針の継続性に不利であり、これが教官の協力の意欲を削いだことも率直に認めねばならない。

図書館を天職とされる方々は一般に物静かな方々が多く、その主張をあまり押し通されないこともその背景として考えられよう。

5. 例えば、25年以上も前から盛んに強調されている「指定図書制度」なども、実のところ、私もその趣旨が理解できなかった1人である。しかし、偶々、英語による短期留学受入プログラムを九州大学が他の国立大学に率先して実施することとなり、その運営の過程で、米国の学生を受入れ、また実地に見学し米国の「授業」3単位は、我々の「講義」と全く異なり、教師と受講生の共通の素材文献を基礎とする真剣な討論、60分の週3回（半年15週）と思ひ知

らされたのである。そのモデルならば、なるほど、詳細なシラバスを予め公表し1科目当り何十タイトルの同じ書籍を、受講生に必ず分だけ日夜開館の図書館に備えておく必要がある訳である。少なくとも、我々大学の現場には、文部省情報図書館課の見識が大学課よりずっと先に到達していたのであるが、とてもそこに思いが至らなかった。図書館の方々は持前の謙虚さで、「先生も学生も抜本的に変わらないといけない時期です。図書館はそのほんの一部のお手伝いをしているだけです。」と言われていたのだとやっと今になって知るのである。

6. ひょっとすると、当時の過激派諸君が大学のシンボルとして時計台ではなく、図書館を「主戦場」として選んでいてくれたら、大学図書館の歴史は変わったかもしれず、(自然科学系の先生方が殆どである) 国立大学学長先生方も、おそらく、「大学図書館 = 古本倉庫」説に強力に反論して頂けたことになっていたかもしれぬ、とまで考えたくなるほどである。

7. 本を相手の文系の研究者は、おそらく、図書館職員と多くは共通の性格を持つのであろう。世の中の動きはともかく、静かに本を読み、自分の研究を進めたいと熱烈に考える。そのものにとっては倉庫であろうがなかろうが、数百万冊の図書は魅力のかたまりである。実際、九州大学には、良くもこんな本を所蔵してくれていたと感心する書籍と出会うことが幾度もある。残念なのは、その量に比べ時間があまりに少なすぎることである。

附属図書館に森洋教授の御尽力によるフランス古文書学の大家ペラ教授の遺文庫購入が実現した。ついで、ローマ法学の碩学クンケル教授(ミュンヘン大学)の遺文庫を購入していただき、660頁の大冊の行き届いたカタログが出来上がって暫くのところである。「かねて、こうした地道な作業に丸善とか紀伊國屋書店とかが、目録作成賞を設け顕彰したらと考えている。」と洩したところ、すぐに、「一人でも多くの方がこのカタログで文庫を使って頂くことこそが私達は嬉しいので、賞なんかしょうもない。」という反論に会ってしまった。

おそらく、本が好きで図書館に生涯をかけているこのような職員の方々と、「倉庫」の中から宝を探り、見出し、研究を発展させていく頼もしい次の世代が育っている以上、山本義隆氏と文部省高官それぞれの見識についての世評とは関係なく、大学図書館は魅力ある生命をもち続けるであろう。

8. 最後に、我々のラテン語古刊本書誌研究会の副産物としてのひとつの発見をお伝えしたい。

江戸時代のほんとうの末頃(1867年) 長崎においてJ.M.J. という宣教師によって作成されたと考えられる「日本語 - ラテン語(和羅)辞書」の手稿「Vocabularium Iaponense-Latinum / J.M.J. [請求記号 626/P/3]」が附属図書館に所蔵されていたことが分かった。その入手経緯は未詳であるが、こういうものがあるのが古い大学の良さである。長崎方言の研究資料としても、また、長崎奉行所の言葉遣いの決め手になるかも知れない。長崎出身の方で、ラテン語も勉強したいとお考えの方にはぴったりの資料のように思われる。

(にしむら しげお 法学研究院教授 ローマ法専攻)



Chichiwu — Leo, onis, ~~m.~~ (m.)
Chichinowari, nou, uotta — Ortaus
delinon, no, sic, situm (m).
Mori, y id, etum sum, (d.).
Chichō — Mori et vita.

(最上段: chichiwu = 獅子王(ししおう) - Leo 男性名詞)

九大が所蔵する記録史料の状態と活用⁽⁶⁾

「坤輿全図」

(九州大学文学部東洋史研究室所蔵)

宮崎克則

「坤輿(こんよ)全図」は、①1674年(康熙13年)北京刊図、②1856年(咸豊6年)広東刊図、③1850年(咸豊10年)京城刊図の3種類が存在する。九州大学所蔵分は、3番目の京城(ソウル)刊である。

「坤輿全図」は、中国で初めてヨーロッパ型世界図をもとに漢語で作成された、マテオ・リッチ(1552 - 1610年、利瑪竇)の「坤輿万国全図」(1602年、万暦30年)に続くものである。作者のフェルディナンド・フェルピースト(1623 - 88年、南懐仁)は、ベルギーのピテムに生まれ、1641年に18歳でイエズス会に入会した。異教徒の改宗を熱望したため、1659年に中国に渡った。彼は康熙帝に近侍して、欽天監に関する政務のかたわら、天文学・数学・哲学・音楽を講じた。同じく康熙帝に仕えたフランス人宣教師ジョアシャン・ブーヴェ(1656 - 1730年、中国名・白進)は、その著作の中で、

『康熙帝は特にフェルディナンド・フェルピースト師に対して、何時も本当の尊敬を寄せられたほど同師には最初から御情愛を示されました。』

と述べている(『康熙帝伝』、東洋文庫155、平凡社)。そうしたフェルピーストへの信任により、宣教師使節団は、中国における布教活動に便宜を得ることができたのである。1674年(康熙13年)に印刷された「坤輿全図」は、そうしたイエズス会宣教師の布教活動の一環として作成され、康熙帝に献上されたものと思われる。

「坤輿全図」は、17世紀における最新情報を載せるブラウ系世界図の強い影響を受け、東半球を左側、西半球を右側に配し、中国を図面全体の中央に位置づけ、北京を通る子午線を本初(経度0度)とするなど、中国側に配慮したものとなっている。南半球には、オーストラリア大陸と南極と見られる大陸が

描かれ、北半球にはフリードの探検航海(1643年)によって判明した北海道の一部が描かれるなど、当時の最新の地理的知識が反映されている。

北京で刊行された初版「坤輿全図」は、世界的にも伝存例は少なく、マテオ・リッチ「坤輿万国全図」が、江戸時代に我が国に伝わり、当時の知識人を大いに刺激してリッチ系世界図と呼称される数多くの模写図が製作されたのに対し、本図を直接手本とした世界図は作成されていない。

九州大学所蔵「坤輿全図」は、初版図を模写したものであるが、初版図が「坤輿全図」のタイトルについて、「坤輿」を第6幅に、「全図」を第3幅に記すのに対し、九大分は「坤」字を第7幅、「輿」字を第5幅、「全」字を第4幅、「図」字を第2幅に記している。地名の記載について、両図に差異のない地域もあれば、九大「坤輿全図」の方に地名の誤字や誤記が検出される地域もある。九大分「坤輿全図」は、1幅の版面が横約56.9cm、縦約179.6cmの6幅からなる大型図である。各幅は、それぞれ6枚の版木に分かれ、合計36枚の版木からなるが、版木の縦の長さは一定していない。その結果、初版図がきれいな円形を描くのに対して、九大分を横に並べると、各幅に白く残る版木の継ぎ目は一致せず、半球はきれいな円形をとらず、ズレを生じている。彩色は全く彩色されていない。これは、もともと白地図として印刷され、購入者が彩色をほどこし、表装を行う室内装飾用として作成されたことを示していると思われる。中国・日本・朝鮮などの漢字文化圏で作成された図版の多くが、掛け軸として壁に掛けたり、屏風などに仕立てられることを前提に作成されている。

九大分は、表装すべきものを、折図のように折り畳んで保管したため、折り目部分の損傷が激しく、そのため印字が摩耗して識別できない部分もある。

また、紙面の変色や汚れも見られたので、一応の保存処置を講じた。この図は、長らくその存在が忘れられていた。

絵図の中の日本について、つぎの解説文がある。

『日本乃海内一大島、長三千三百里、寛不過六百里、今有六十六州、各有国主、俗尚強力、雖有総王、権常在強臣、其民多習武、少習文、土産銀鉄好漆、其王生子、年三十以王讓之、其国大抵不重宝石、只重金銀及古窰器。』

訳すれば、「日本は海内の一大島である。長さ3300里、広さは600里にすぎない。今、66州あり、各々に国主がいる。風俗はなお強力で、統べる王がいるといっても、権限は強臣のもとにある。その民は、武を習う者が多く、文を習う者は少ない。銀や鉄・良質の漆を産す。その王は、子を生むと年30で王位をその子に譲る。その国は、宝石を重宝せず、ただ金銀や古窯を大事にする。」とある。

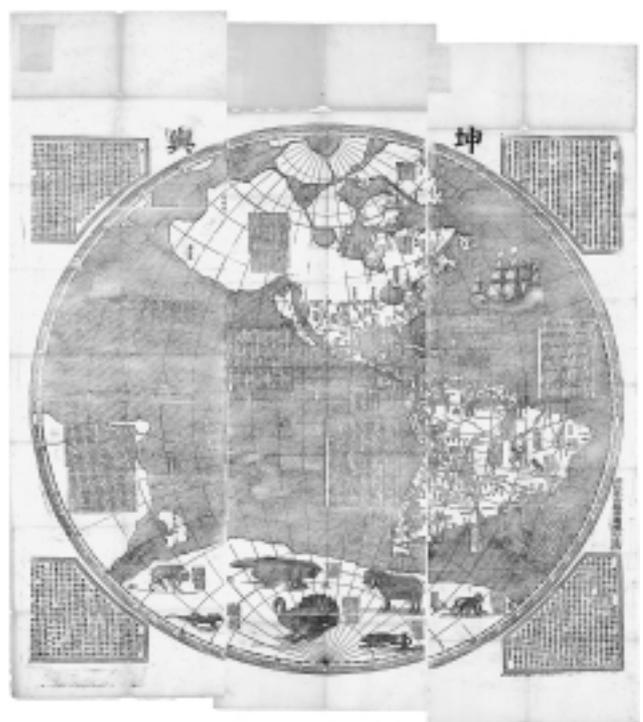
日本の地理的説明からはじまり、江戸時代の政治体制や風俗などについて、他地域に比べてやや詳細な記述となっている。こうした知識は、中国側に蓄積されてきた見解というよりは、ザビエルの渡来から始まり、実際に日本国内で布教活動を行ったイエズス会宣教師たちの記録にもとづくものと考えられる。

また、西半球の「南方大陸」には、7頭の生物が描かれている。その内のカメレオンについて、

「アジア州ルドゥア国に獣名カメレオンを産す。皮は水気のように明瞭で、物に従って変色し、性質行動は大変のろく、草木土石の間に隠れ、人に識別しにくくさせる」

とあり、簡にして要を得た特徴が記されている。ヨーロッパ製の地図に基づく「坤輿全図」は、当時の科学技術や見聞・知識を豊富に盛り込んで作成された歴史的価値の高い資料である。

(みやざき かつのり 総合研究博物館)



You - 大学図書館で何をする？ どう使う？

- 新入生のための図書館ガイダンス -

秋 月 滋

新入生の皆さんこんにちは。皆さんの新しい大学生活がこれから始まりますね。学生生活を充実したものにするためには大学図書館を上手く利用することは重要なことだと思います。今回はそのために九州大学附属図書館について簡単にガイドしてみたいと思います。

内 容

1. どこにどんな図書館があるの？
2. 図書館の利用方法を調べる
3. 図書や雑誌を探す方法
4. 図書館に行かなくても利用できるサービス
5. 図書館のその他のサービスや設備

1 どこにどんな図書館があるの？

九州大学附属図書館は

- ・中央図書館（箱崎地区）
- ・医学分館（病院地区）
- ・芸術工学分館（大橋地区）
- ・筑紫分館（筑紫地区）
- ・六本松分館（六本松地区）

の5つの図書館と学部等図書室（文学部、教育学部等、法学部、経済学部、工学部 etc）から構成されています。

上記5つの図書館は、基本的に皆さんのどなたでも自由に利用できます。学習するための閲覧席や資料の数、検索用のパソコンの数も豊富です。これらの図書館は、主として各キャンパスの教官の研究をサポートする機能と、学生を対象とした学習をサポートする機能の両面を備えています。

これに対して学部等図書室は、学部所属教官の研究のサポート、及び学部所属学生の学習のサポートを主な機能としています。その上で、上記5つの図書館と連携をはかりながら他学部所属の利用者に対しても開かれたサービスを行っています。

2 図書館の利用方法を調べる

皆さんは九州大学の全ての図書館を利用できます。とは言いましても、それぞれの図書館（室）は主なサービス対象者が異なるため、全く同じように利用

できるわけではありません。開館日や開館時間も違えば、貸出冊数・期間（冊数の制限は館毎。附属図書館全体で何冊とは決まっています。上手く利用すれば沢山借りることが出来ます）も異なります。また、所属学部や身分によっても利用条件が異なる場合もありますので、図書館・室を利用する前に確認するようにしてください。

【九州大学附属図書館ホームページ】

（<http://www.lib.kyushu-u.ac.jp/>）の「Guides」の各館室利用案内をクリックしてみてください。それぞれの図書館・室の利用案内等がズラズラと出てきます。開館スケジュールもここで確認できます。

3 図書や雑誌を探す方法

図書や雑誌を探すための検索方法についてお話しする上で、最初にお伝えしておきたいのが、検索に関する講習会についてです。

今の世の中は、世界中にある情報を手に入れることが出来ます。しかし、その膨大な情報の中から目的のものを手に入れるのはとても大変です。それが例え九州大学内にある図書に限ったとしても、それでも大変です。何しろ大学内だけでも350万冊を超える蔵書がありますから。

これらを効率的に検索できるように附属図書館では「情報検索講習会」と題して、“図書の探し方”や“各種学術文献データベースの使い方”“インターネット検索”等について講習を行っています。ホームページ上や掲示板に開催日程等が公表されますので、確認の上、受講されるようお願いいたします。

それではここでは簡単に資料の検索の流れについてのみ触れてみたいと思います。

九州大学に所蔵している図書や雑誌を探す場合にはOPAC（九州大学附属図書館ホームページのServices 蔵書検索 OPAC）で検索することによってわかります。

所在場所（クリックで詳細表示）と請求記号（通常、この記号順に並んでいる）を確認し、所蔵館へ行き目的の資料にたどり着きましょう。

もしお探しの資料が他のキャンパスの図書館にある場合は、「学内配送サービス」で取り寄せることが可能か図書館のカウンターで尋ねてみましょう。

探している資料が九大内に無かった場合は Webcat (九州大学附属図書館ホームページの Services 蔵書検索 学外蔵書検索) を使しましょう。国内の他大学等図書館の蔵書を調べることが出来ます。こちらで所蔵している大学等が確認できれば、文献複写や現物貸借で他大学から取り寄せることができます。窓口はそれぞれの館で異なりますので、カウンターでご確認ください。

しかし、皆さんが論文を書く段階になると、先行論文、参考文献の調査をすることになるでしょう。その場合、OPAC や Webcat だけでは不十分になってきます。論文名を検索する場合には MAGAZINE-PLUS (国内の雑誌論文) や Web of Science (外国雑誌の学術論文) といったデータベースを使用することになります。

その他に、朝日新聞記事データベースやオンライン百科事典、さらには医学中央雑誌、Current Contents、MEDLINE といった、より専門的なデータベースも図書館は提供していますし、外国雑誌論文のフルテキストを電子ジャーナルとして見ることも出来ます。これらをいろいろと駆使しなくてはなりませんから、やはり「情報検索講習会」を受講することをオススメします。

4 図書館に行かなくても利用できるサービス

多くのデータベースや電子ジャーナルは九大内のパソコンからの利用に限定されていますが、OPAC や Webcat は自宅からでも利用できます。さらには貸出中資料の返却期限日の確認や予約資料の状況の確認、学外への文献複写の依頼も図書館ホームページから申込み可能です。事前申請が必要ですからホームページで確認してください。

このように、図書館を利用するというはその建物に入らなくても出来るものなのです。図書館には必要な時だけ行けばいいのです！

5 図書館のその他のサービスや設備

「図書館には行かなくても良い」というようなことを書きましたが、本当にそれで良いのでしょうか？実は、図書館に行けばもっと多くの情報に出会うチャンスがありますし、書架の間を歩くと興味を注ぐようないろいろな本もあります。ここでは皆さんにとって、そういった可能性を持ったサービスをいくつか紹介してみたいと思います。

・レファレンスサービス

探している資料が見つからない時や、「もっと他に無いのかなあ」と感じた時にはレファレンスカウンターへお尋ねください。図書館の叡智を結集

した(!)レファレンサーがきつとお役に立つことでしょう。

・指定図書

教官が指定した、授業内容に関連のある図書を提供しています(館内閲覧のみ)

・演習室 / 研究個室

館毎で名称は若干違いますが、グループで学習したり、一人で静かに学習したりするための部屋もあります(研究個室は中央図書館のみ)

・雑誌

学術雑誌はもちろんのこと「九州ウォーカー」等の情報誌も置いてあります(中央図書館)

・新聞

通常の日刊紙から専門紙まで色々な新聞を提供しています。昔の新聞を保存しているものもあります。

・パソコン

情報サロンとしてパソコンを多数設置しています。情報検索のみならず、文書作成等にも使用できます。

・情報コンセント

ご自分でお持ちのノートパソコンを使用できるようにインターネット接続用情報コンセントを備えたデスクも設置しております。

*以上のサービスは全ての館で提供しているわけではありません。ホームページでご確認ください。

以上のように、九州大学附属図書館では皆さんの大学での学習・研究活動をより充実したものとするための様々なサービスを提供しています。さらに、これらのサービスの中には卒業後も利用できるものもあります。卒業後は皆さんの環境が情報検索に適しているとは言えないかもしれませんが。そんな時にも「九大附属図書館に行けば調べられる」のです。一生使える図書館。是非使いこなしてください。

(あきづき しげる 情報管理課図書情報第二掛)



附属図書館の開館スケジュールについて

九州大学各図書館、学部図書室の年間開館スケジュールは

<http://www.lib.kyushu-u.ac.jp/ref.html> でみるができます。

やむを得ない事情で臨時に開館時間の変更を行うこともありますので、各館・図書室のホームページのお知らせにご注意ください。

平成16年度 中央図書館開館スケジュール

平日	9:00 - 22:00		土日祝日	10:30 - 18:00	
短縮	17:00 - 22:00		休館日	閉館	

2004年		4月				
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

2004年		5月				
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

2004年		6月				
日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

2004年		7月				
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

2004年		8月				
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

2004年		9月				
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

2004年		10月				
日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

2004年		11月				
日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

2004年		12月				
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

2005年 1月						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

2005年 2月						
日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28					

2005年 3月						
日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

平日（17：00以降）、休日（土日祝日） に行っている業務	平日（17：00以降）、休日（土日祝日） に休止している業務
<ul style="list-style-type: none"> ・ 図書の貸出・返却（閉館30分前まで） ・ 図書館利用者票の交付（閉館30分前まで） ・ 複写機の利用（閉館15分前まで） ・ 第1、第2情報サロンの利用（閉館15分前まで） ・ 図書館データベースの検索 ・ CD-ROMの検索 ・ AVコーナーの利用 ・ 海外衛星放送の利用 ・ 学外者の図書館利用者票交付申請受付 ・ 演習室および研究個室の利用 ・ 学内資料配送サービス申込・受渡 	<ul style="list-style-type: none"> ・ レファレンスサービス ・ 相互利用業務 ・ 貴重資料の利用 ・ 保存書庫の利用 ・ 演習室・研究個室の受付 ・ 学外データベースの代行検索 ・ 理・農学部の学位・修論・卒論の閲覧 ・ 学内者の図書館利用者票登録受付

平成16年度 六本松分館開館スケジュール

土・日・祝日、および平日の17：00以降のサービス内容	
実施しているサービス	休止しているサービス
<ul style="list-style-type: none"> ・ 一般資料の閲覧 ・ 資料の貸出・返却（閉館30分前まで） ・ 複写機（コイン式）の利用 ・ 情報サロンの利用 ・ 図書館利用者票の交付 	<ul style="list-style-type: none"> ・ レファレンス（参考調査）サービス ・ 相互利用（ILL）サービス ・ 貴重資料・特殊資料の利用 ・ 視聴覚室、AV室の利用 ・ 視聴覚資料、マイクロ資料の利用 ・ 利用者登録の受付

平日	9:00 - 20:00		土日祝日	10:00 - 17:00	
試験期	9:00 - 21:00		休館日	閉館	
短縮	9:00 - 17:00				

2004年		4月				
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

2004年		5月				
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

2004年		6月				
日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

2004年		7月				
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

2004年		8月				
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

2004年		9月				
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

2004年		10月				
日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

2004年		11月				
日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

2004年		12月				
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

2005年		1月				
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

2005年		2月				
日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28					

2005年		3月				
日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

附属図書館ホームページから情報検索!!

「You - 大学図書館で何を? どう使う?」で紹介しましたが、図書館にはインターネットに接続可能なパソコンが設置されており、図書館が提供する電子媒体資料や図書館所蔵情報検索システム、学術文献データベースの検索、電子ジャーナルのフルテキスト情報の収集等に利用できます。

読んでみたい本の情報探索、論文やレポートを作成する際に必要な参考文献の検索等に役立つ様々な情報の中で図書館のホームページから利用できるものの一部を紹介します。また、これらを利用するにあたって、図書館で開催している情報検索講習会についても簡単に紹介します。

図書館所蔵情報の検索

所蔵検索については、学内のパソコンだけでなく自宅等、学外からも検索できます。図書館ホームページ「Services」の「蔵書検索」をクリックすると、蔵書検索に関するアプローチとなる各サービス機関の情報が表示されます。

- **九州大学 OPAQ (Online Public Access Catalog)**
九州大学の蔵書のうち大部分については、OPACで所蔵状況の検索ができます。携帯電話による検索も可能です。検索結果の所在場所をクリックするとその資料の配架場所、利用の際の注意事項等が表示されます。
- **学外蔵書検索 (NACSIS Webcat)**
国立情報学研究所 (NII) に登録されている日本全国の大学図書館等の蔵書検索できます。九州大学に所蔵していない資料についても他の大学が所蔵していれば検索が可能です。所蔵大学をクリックしますと、その大学の利用案内、連絡先や文献複写による取り寄せ、現物貸借に関する情報等が表示されます。
- **国立国会図書館蔵書検索 (NDL - OPAC)**
国立国会図書館の蔵書のうち、和書約200万件、洋書約20万件を検索できます (和書: 1948年~

洋書: 1986年~)。必要な論文については、著作権許諾の範囲で文献複写により取り寄せることもできます。

これらの他に、図書館ホームページ「Links」の図書館関連サイトをクリックすると、福岡県立図書館、福岡市総合図書館、大英図書館、アメリカ議会図書館等の所蔵検索へ進むこともできます。

電子ジャーナル

従来、紙媒体として刊行されていた雑誌が電子化され、ネットワークを介して出版社のホームページ等に接続し、パソコンのディスプレイ上で雑誌の記事、論文を見ることができます。また、これらを印刷、保存することも可能となっています。ただ、利用上のマナーを守るとともに著作権等に遵守しなければなりません。

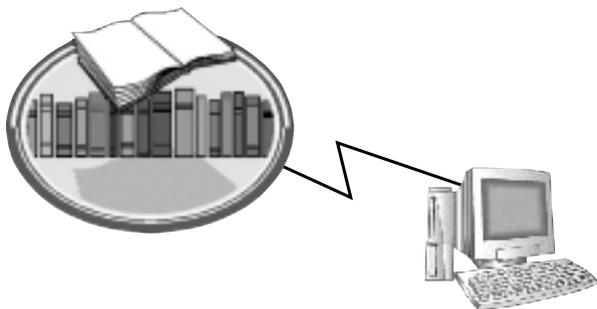
図書館ホームページ「Services」の「電子ジャーナル」をクリックすると、電子ジャーナルに関する利用案内やタイトル一覧、サービスサイト・出版社等の情報が表示されます。なお、現在は外国雑誌のみがサービス対象となっています。

学術文献データベース

附属図書館では、様々なデータベースを導入し利用者に提供しています。図書館ホームページ「Services」の「文献データベース」をクリックすると、文献データベースの一覧が表示されます。ただし、このサービスの利用については、学内 LAN に接続されたパソコンに限定されていますので、学外からの利用はできません。

総合

- **Web of Science**
論文タイトルの検索に加え、引用文献検索ができる Citation Index の Web 版です。Science Citation Index Expanded (1970~)、Social Sciences Citation Index (1993~)、Arts & Humanities Citation Index (1993~) を提供中です。
- **Current Contents (Ovid)**
世界の主要な学術雑誌を網羅した最新の目次情報データベースです (1996年~)。
- **SwetsWise**
Swets 社提供の学術雑誌約15,000タイトルの目次情報データベースで全分野の論文を論文名・著者名・抄録などから検索することができます。



- Ulrichsweb
雑誌、新聞等の逐次刊行物に関する出版情報等の情報誌「Ulrich's periodicals directory : international periodicals information since 1932」のネット検索版です。
- MAGAZINEPLUS (NICHIGAI/WEB)
日本で出版されている学術雑誌(1975年～)の記事情報や人文科学系の年次研究報告・学術論文集の記事を探すための国内最大の雑誌記事論文情報データベースです。
- BOOKPLUS (NICHIGAI/WEB)
昭和元年から現在までに出版された書籍情報で、1986年以降の図書については、目次情報や要旨も収録されています。
- 作家・執筆者人物ファイル (NICHIGAI/WEB)
日本の作家、評論家、ジャーナリスト、ライターなどの情報を収録した、日本版 Writer's Who's Who です。
- 百科事典
ネットワーク版「世界大百科事典(平凡社)」。
- 新聞記事(聞蔵)
朝日新聞(1984年8月～)、AERA(1988年5月～)、週刊朝日(2000年4月～)の記事索引情報データベースです。
- LexisNexis™ Academic
世界各国の英文の新聞・雑誌記事からビジネス情報、法律情報、医薬情報、リファレンス情報など幅広い情報がデータベースに収録されています。

自然科学

- JCR Web
引用データを基に算出された年間統計を提供する雑誌評価ツールJCRのWeb版で、Impact Factor(文献引用影響率)もわかります。Science Editionの2001 - 2002が検索可能です。
- MEDLINE (Ovid)
世界の医学・薬学、生物学および関連分野の雑誌約3,900誌の記事・会議録・図書等を網羅した採録データベースです(1966年～)。
- CINAHL (Ovid)
看護とアライドヘルス分野の英語の雑誌論文を網羅した文献情報データベースです。
- EBMR (Ovid)
科学的な根拠に基づいて最適な医療・治療を選択し実践することを目的とし、医学論文全体から臨床的に適切な論文を収録したデータベースです。
- 医学中央雑誌 Web 版
医学中央雑誌刊行会が作成している抄録・索引

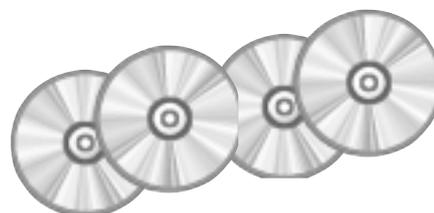
データベースで、国内の医学・歯学・薬学及びその関連領域の雑誌論文・学会発表抄録などが収録されています(1987年～)。

- SciFinder Scholar
化学を中心として医学・薬学・生化学等の分野の文献情報・化学物質情報・有機化学反応情報等を収録したデータベースです。
有機化学反応(1985年～)、化学物質(1957年～)、化学文献(1947年～)、医学文献(1958年～)。

人文・社会科学

- 現行法令 Web
法務省編集の「現行日本法規」に基づいて作成された、最新の法令情報を収録した最大規模の法令データベースです。
- ERIC (Ovid)
教育学関連情報を収録した世界的なデータベースであり、雑誌や政府報告書等の文献情報が収録されています(1966年～)。
- PsycINFO (Ovid)
American Psychological Association(米国心理学会)が作成している、心理学および行動学分野の包括的な文献情報データベースです(1887年～)。
- EconLit (Ovid)
American Economic Associationが作成している、経済学に関する世界の文献の索引と抄録を提供するデータベースです(1966年～)。

その他、利用について制限はありますが、各部署で提供し部局図書室のホームページから利用できるものとして、Lex - DB(判例検索データベース)、EBSCOhost(経済学分野の雑誌記事・論文の全文・抄録)、有価証券報告書(上場・非上場企業の有価証券報告書)、日経 NEEDS - FinancialQUEST(日経新聞社が持つ経済総合データベース)、JOIS Easy(科学技術に関する文献や研究テーマ情報)等もあります。また、中央図書館参考図書室内においているCD-ROMチェンジャーを利用して科学技術文献情報速報、明治の読売新聞等の検索もできます。



情報リテラシー学習支援、情報検索講習会

附属図書館では情報基盤センターとの共催で、利用者の情報検索技術の向上を目指し情報リテラシー学習支援として様々な情報検索講習会を実施しています。

定期的講習会

「図書の探し方」「雑誌論文の探し方」「各種所蔵の検索方法」「各種データベースの検索方法」「電子ジャーナルの利用方法」等について、箱崎、病院、筑紫、芸術工学、六本松地区の各キャンパスで開催場所、時間を設定した検索講習会を開催しています。掲示板、ポスター、附属図書館ホームページで講習内容、開催日程をお知らせしていますので、ご注意ください。

各講習会で利用したテキスト等については、情報リテラシー学習支援のホームページ

「<http://minerva.lib.kyushu-u.ac.jp/literacy/index.html>」から入手できます。

情報検索講習会オンデマンド

担当している科目での学生に対する授業の補助としてその授業の一コマを使って、研究室やゼミ担当教官・学生単位、ゼミの仲間との勉強会等少人数向けにオーダーメイドによる講習会を受付・開催しています。開催内容、日程については申込み時に相談させていただきます。

(情報サービス課 参考調査掛)

法人化をバネに風を西から ～九州地区国立大学パネルディスカッションを開催～

附属図書館では、2004年1月16日、「飛翔できるか大学図書館：法人化をバネに風を西から」と題して、九州地区国立大学パネルディスカッションを開催しました。4月からの法人化を目前に控え各大学とも準備作業が大詰めを迎えているなか、九州地区内の国立大学から約50名の参加者がありました。

このパネルディスカッションは、文部科学省研究振興局情報課学術基盤整備室の高比良幸蔵情報推進専門官を特別助言者に、東京大学附属図書館の笹川郁夫事務部長並びに京都大学附属図書館の大埜浩一事務部長を講師に迎えて行われたもので、法人化を契機に大学図書館サービスを一層飛躍させるとともに、地区内の国立大学図書館職員の意識向上を目的として開催されたものです。

藤田昌也副館長の開会挨拶に続き、第1部では、

笹川部長の「大学図書館の改革」、大埜部長の「大学図書館職員のキャリア・パス」と題した講演並びに附属図書館の情報管理課長による九州大学附属図書館の取り組みについての事例報告が行われました。第2部では、第1部の講演と事例報告を受けて、本学附属図書館の事務部長の司会により、特別助言者の高比良専門官と3名のパネラーによるパネルディスカッションが行われ、会場の参加者を交えた活発な討論が行われました。



中央図書館 IC カード利用実験

九州大学では、平成18年度を目標に、学生証や職員証をICカードにするプロジェクトを始めています。それに先駆けて、九州大学LSI研究センターと協力し、中央図書館の入館システムとカウンターの貸出システムで利用実験を行っています(期間：平成16年2月2日～4月16日)。本学の学生または教職員を対象にモニター募集を行い、50数名にICカードを発行しました。

磁気カードに代わる次世代カードとして、また、プライバシーやデータの安全性を高めるために個人ID(情報)保護システム『PID(プライベートID)システム』を搭載しています。カードを財布の中に入れてそのまま読み取り機にかざせば入館、貸出がOKとなります。多くの方々に協力をいただきありがとうございます。

(情報サービス課)

平成16年度開学記念行事 第45回附属図書館貴重文物展示 中央図書館・医学分館ジョイント展示会

シーボルトが観た日本 - NIPPON 初版本図版から -

医学分館で所蔵しているシーボルト「NIPPON」の初版本図版や関連資料の展示会を開催します。

テーマ別展示（内容が変更される場合があります）

- ①シーボルト「NIPPON」について
- ②シーボルトが見た日本の人々と風俗
- ③シーボルト江戸紀行
- ④シーボルト事件に迫る
- ⑤シーボルトの恋と愛 - 妻と娘 -
- ⑥シーボルトと医学（医学分館会場）



オタク（お滝さん）



花魁図

開催期間：平成16年5月10日(月)～5月19日(水) 附属図書館2階自由閲覧室

平成16年5月10日(月)～5月15日(土) 医学分館貴重書展示室

記念講演会：平成16年5月15日(土) 14時～ 附属図書館視聴覚ホール

人事異動

（平成15年10月16日から平成16年2月29日）

（中央図書館）

- 10.31 末岡 友絵（データベース掛事務補佐員）辞職
 1.31 中村 綾（図書情報第二掛）辞職
 2.2 吉松 直美 図書情報第二掛（職務復帰）

図書館日誌

（平成15年10月16日～平成16年2月29日）

- 10.16 中央（文系）・理系図書館検討専門部会（合同会議）（中央図書館）
 10.20 平成15年度第3回情報ネットワーク担当職員研修（国立情報学研究所）（～23日）
 10.21 NAIST 電子図書館学講座（奈良先端科学技術大学院大学）
 10.23 芸術工学分館誕生セレモニー（芸術工学分館）
 10.24 学生用図書選定委員会（中央図書館）
 10.29 国立大学図書館協議会常務理事会（名古屋大学）
 10.30 国立大学図書館協議会賞受賞者選考委員会（名古屋大学）
 " 国立大学図書館協議会理事会（名古屋大学）
 " 台湾大学図書館 館長、行政組編審、特蔵組編審 来館
 10.31 台湾大学図書館との交流協定締結（中央図書館）
 11.4 第5回図書館総合展（東京国際フォーラム）
 11.5 中央図書館図書資料選定委員会（中央図書館）

- 11. 6 附属図書館講演会（講師：名古屋大学附属図書館長）（中央図書館）
- 11. 11 平成15年度西洋社会科学古典資料講習会（一橋大学）（～14日）
 - 〃 平成15年度大学図書館職員講習会（大阪大学）（～14日）
- 11. 12 附属図書館商議委員会（中央図書館）
- 11. 13 電子ブック説明会（中央図書館）
- 11. 14 資料保存研修会（中央図書館）
- 11. 19 シンポジウム「アジアへの知的探求と図書館サービスの新展開」（国立国会図書館関西館）
- 11. 20 平成15年度第6回電子ジャーナル・タスクフォース（東京大学）
- 11. 20 全学図書系掛長会議（中央図書館）
- 11. 25 平成15年度情報処理軽井沢セミナー（国際高等セミナーハウス）（～28日）
- 11. 28 漢籍講習会（中央図書館）
- 12. 1 中国教育部中国大学教職員訪日代表団来館
- 12. 2 電子ジャーナルの取扱いに関する担当者会議（国立情報学研究所）
 - 〃 九州地区国立大学附属図書館人事担当事務（課）長会議（中央図書館）
 - 〃 九州地区国立大学附属図書館電子化推進連絡会議（中央図書館）
 - 〃 九州地区国立大学附属図書館長懇談会（中央図書館）
 - 〃 九州地区国立大学附属図書館事務（部・課）長会議（中央図書館）
 - 〃 九州地区国立大学附属図書館長、事務（部・課）長合同会議（中央図書館）
- 12. 3 筑紫分館運営委員会（筑紫分館）
 - 〃 ラテン語古刊本書誌作成研修会（中央図書館）
- 12. 5 国立情報学研究所公開講演会（京都市）
- 12. 8 第16回国立大学図書館協議会シンポジウム（西地区）（神戸大学）
- 12. 10 文献画像システムの活用に関する打合せ会議（鹿児島大学）
- 12. 17 古書・文書等整理・利用及び保存検討委員会（中央図書館）
- 12. 18 電子ジャーナル等検討専門委員会専門部会（中央図書館）
- 12. 19 GIFと画像伝送システムの活用研修会（京都大学）
 - 〃 資料保存研修会（中央図書館）
 - 〃 福岡県・佐賀県大学図書館協議会福岡地区研究会（西南学院大学）
- 12. 26 仕事納め
- 1. 5 仕事始め
- 1. 9 法人格取得問題に関する附属図書館長懇談会（東京大学）
- 1. 16 九州地区国立大学附属図書館パネルディスカッション「飛翔できるか大学図書館：法人化をバネに風を西から」（中央図書館主催）（会場：情報基盤センター）
- 1. 19 平成15年度学術情報リテラシー教育担当者研修（国立情報学研究所）（～21日）
- 1. 20 芸術工学分館運営委員会（芸術工学分館）
- 1. 21 九州地区国立大学図書館協議会実務者連絡会議（宮崎大学）（～22日）
- 1. 22 国立大学附属図書館事務部長会議（富山大学）
- 1. 29 平成15年度第7回電子ジャーナル・タスクフォース（千葉大学）
- 1. 30 漢籍講習会（六本松分館）
- 2. 10 古書・文書等整理・利用及び保存検討委員会（中央図書館）
- 2. 13 筑紫分館運営委員会（筑紫分館）
- 2. 23 附属図書館商議委員会（中央図書館）
 - 〃 館長会議（中央図書館）

自 著 紹 介

竹村則行（人文科学研究院・教授）

「楊貴妃文学史研究」

竹村則行著
研文出版 2003 . 10

[中央図書館 920 2 / Ta 63]
[六本松分館 920 2 / Ta 63]
[文学部 中文 / 42A / 878]

この本は、楊貴妃関連の中国文学作品を系統的に追究した、題目を特定した一種の文学史研究である。著者がこれまで20数年、同題の中国文学講義を重ね、その間に発表した17篇の関連論文から成る。

唐代に実在した楊貴妃は誰もが知っているが、その実態はあやふやなまま、日本伝来の白居易「長恨歌」を含め、後世多くの文学虚飾が重ねられて来た。

美女は、その時代によって相対的に美化されて成ったのであり、決して絶対的な存在ではない。唐・明・清・日本、それぞれ独自の楊貴妃像を持つ。この本をまとめて分かったことが三つある。一は、楊貴妃の魅力は多くの唐代の繁栄の反映であること。二は、彼女に纏わる故事が多く明清の修飾に淵源すること。これは、楊貴妃故事のみならず、中国文学史上の考え方、更には都市や交通、経済の実態をも含めて普遍の現象であり、優れて今日的である。三は、本書のような不要不急の学術書は、今日の実利・便利・合理の世相には合わず、正当に評価されるまで相当の時日を要するであろうことである。

施 光恒（比較社会文化研究院・助教授）

「現代政治理論」

W. キムリッカ著；岡崎晴輝 [ほか] 訳
日本経済評論社 2002 . 2

[六本松分館 311 .1 / Ky 1]

カナダの気鋭の政治理論家であるウィル・キムリッカの書いた現代政治理論の教科書の翻訳である。教科書といっても、想定している読者のレベルは少々高く政治理論を専門とする学部生、あるいは大学院生である。

本書の原書は、非常に高く評価されており、さまざまな言葉に翻訳され、世界中の大学・大学院でス

タンダードな教科書として使用されている。本書の狙いは、教科書であるから当然であるが、現代の政治理論を紹介することである。しかし著者キムリッカの行う紹介は平板なものではない。キムリッカ自身が、平等を重視するかなり福祉国家的なリベラリズムの立場を支持することを明らかにし、この立場から、現代の代表的な政治的立場 - 功利主義、リベタリアニズム、マルクス主義、コミュニタリアニズム、フェミニズム - の是非を縦横無尽に論じるという形をとっている。

現代政治理論・哲学を本格的に勉強したい学生諸君には最適の入門書である。

施 光恒（比較社会文化研究院・助教授）

「リベラリズムの再生:可謬主義による政治理論 = A rebirth of liberalism : deriving a political theory from fallibilism」

施光恒著
慶應義塾大学出版会 2003 . 8

[中央図書館 311 .7 / Se 11]
[六本松分館 311 .7 / Se 11]

本書は、リベラリズムの価値を新しい視点から説明する本である。新しい視点とは、「可謬主義」、つまり「人間の誤りやすさ」を強調する視点である。

人間は誤りやすい存在であるため、自己の人生の目的についてでさえ把握することは困難である。人が自分自身や自分自身を取り巻く状況について認識を深め、より善き生き方を模索していくためには、自身の過去の経験や他者との社会的相互作用から学ぶ必要がある。リベラリズムの政治制度は、人々が各々自己の善き生き方とは何かということを活発に探し求めていくことのできる最善の社会空間を提供する。それゆえリベラリズムには価値がある。

本書はこのような論法によって市場経済制度や人権制度の有する価値を首尾一貫した形で論じていく。また従来のリベラリズム論ではほとんどなされてこなかった事柄であるが、中間的共同体の理論的位置づけ、および理論の有する文化横断的適用可能性の有無の検討も行っている。

政治理論に興味のある方はぜひご一読ください。



中央図書館

井上尚英 (名誉教授)
「生物兵器と化学兵器：種類・威力・防御法
/ 井上尚英著」
中央公論新社 2003
[559 3 / I 57]

竹村則行 (人文科学研究院・教授)
「楊貴妃文学史研究 / 竹村則行著」
研文出版 2003 . 10
[920 2 / Ta 63]

木佐茂男 (法学研究院・教授)
「『まちづくり権』への挑戦：日田市場外車券
売場訴訟を追う / 木佐茂男編」
信山社出版 2003 . 5
[318 295 / Ki 55]

松永勝也 (システム情報科学研究院・教授)
「交通事故防止の人間科学 / 松永勝也編著」
ナカニシヤ出版 2002 . 7
[681 3 / Ma 83]

萩原祐志 (芸術工学研究院・助教授)
「デザイン支援システムの構築と運用：工業
デザインにおける感性工学的アプローチ / 萩
原祐志著」
海文堂出版 2003 . 5
[501 83 / H 14]

毛利嘉孝 (比較社会文化研究院・助教授)
「文化 = 政治 / 毛利嘉孝著」
月曜社 2003 . 12
[361 5 / Mo 45]
「テレビはどう見られてきたのか：テレビ・
オーディエンスのいる風景 / 小林直毅、毛利
嘉孝編」
せりか書房 2003 . 11
[361 453 / Ko 12]

施光恒 (比較社会文化研究院・助教授)
「リベラリズムの再生：可謬主義による政治
理論 = A rebirth of liberalism : deriving a po-
litical theory from fallibilism / 施光恒著」
慶應義塾大学出版会 2003 . 8
[311 7 / Se 11]

本学関係者著作寄贈図書

蔵書の充実を図るため、図書館では著作物刊行の節は一部ご寄贈くださるようお願いしております。今回は、次の教官からご寄贈いただきました。厚く御礼申し上げます。

医学分館

井上尚英 (名誉教授)
「生物兵器と化学兵器：種類・威力・防御法
/ 井上尚英著」
中央公論新社 2003
[医学分館 QW300 / I 57 / 2003]

六本松分館

竹村則行 (人文科学研究院・教授)
「楊貴妃文学史研究 / 竹村則行著」
研文出版 2003 . 10
[920 2 / Ta 63]

毛利嘉孝 (比較社会文化研究院・助教授)
「文化 = 政治 / 毛利嘉孝著」
月曜社 2003 . 12
[361 5 / Mo 45]
「テレビはどう見られてきたのか：テレビ・オー
ディエンスのいる風景 / 小林直毅、毛利嘉孝編」
せりか書房 2003 . 11
[361 453 / Ko 12]

施光恒 (比較社会文化研究院・助教授)
「リベラリズムの再生：可謬主義による政治
理論 = A rebirth of liberalism : deriving a po-
litical theory from fallibilism / 施光恒著」
慶應義塾大学出版会 2003 . 8
[311 7 / Se 11]
「現代政治理論 / W . キムリッカ著；岡崎晴
輝 [ほか] 訳」
日本経済評論社 2002 . 2
[311 .1 / Ky 1]

文学部

竹村則行 (人文科学研究院・教授)
「楊貴妃文学史研究 / 竹村則行著」
研文出版 2003 . 10
[中文 / 42A / 878]

法学部

木佐茂男 (法学研究院・教授)
「『まちづくり権』への挑戦：日田市場外車券
売場訴訟を追う / 木佐茂男編」
信山社出版 2003 . 5
[Ej77 / K / 77]

新図書館だより

新図書館推進室



工学系移転を目指して理系図書館への移転準備が進行中

移転計画の具体化

平成17年10月の開館を目指して、移転の準備作業が具体的に動き始めました。平成17年に工学系の第1期移転として、工学研究院機械航空工学部門群及び同研究院物質科学工学部門群が、平成18年に工学系の第2期移転として、工学研究院地球環境工学部門群及びシステム情報科学研究院が移転する予定です。

工学系部局の移転に伴い、関連する図書館資料を理系図書館へ移転することになるわけですが、附属図書館では、移転計画を具体化するために、昨年12月から今年3月にかけて、工学研究院及びシステム情報科学研究院の各部門図書室との打合せを行ってきました。その中で、移転する資料の数量把握、移転方法、理系図書館における資料の配架方法等を検討してきました。

工学系移転時には、現在工事が行われている地下1階及び1階の2階層部分を使用してサービスを行うこととなります。地下1階は、主に資料の収蔵のためのゾーンとなり、1階が利用者のためのスペースとなります。この1階に、主に工学系に関連する学術雑誌、学生用図書、研究用図書を配置してサービスを行います。(第2期工事完了後には、1階は学術雑誌及び数学・基礎科学コーナーとして運用することになります。)



1階鳥瞰図

理系図書館計画の進行状況

理系図書館は現在第1期工事として、地下1階、地上1階の2階層分の工事が行われており、完成を目指して着々と工事が進行中です。(右の写真は3月16日現在の写真です。)

建物の建設と平行して、設備の計画も進められ、竣工に併せて、ブラインド、掲示板、入退館ゲート等の設備の導入も予定されています。書架や閲覧机などの家具も、平成16年度中の導入を目指して計画が進められています。



南東側からの工事状況